

令和6年度特別支援教育 助成校だより

助成校

- 上越市立高田西小学校
- 十日町市立千手小学校
- 長岡市立総合支援学校
- 関川村立関川小学校
- 新潟市立東山の下小学校
- 新潟市立巻西中学校

「チーム高田西」で対応する

上越市立高田西小学校

校長 星野 浩一

当校には、知的障害学級が2学級、自閉症・情緒障害学級が1学級、肢体不自由学級が1学級あります。また、発達障害通級指導教室が2教室あります。通常学級に在籍する「困り感のある児童」も多く、一人一人の実態と教育的ニーズに合わせた支援を、校内委員会を中心にチームを組み、対応します。必要に応じて医療機関や専門機関等と連携を図っています。

特別支援学級では、学期ごとに合同の自立活動イベントを実施します。複数の担任が子どもたちに接することで多様な見方ができ、より良い児童理解に繋がります。活動を通して自主性やリーダー性を伸ばし、生き生きと活躍する姿が見られます。

また今年度は、上越教育大学教職大学院の特別支援教育チームと連携して、通常学級担任と通級指導担当の協働による教科の授業づくりについて研修し、成果を上げることができました。



クリスマスイベントの様子

コミュニケーション力を高めるために

十日町市立千手小学校

校長 高桑 康博

当校には、自閉症・情緒障害学級が1学級、肢体不自由学級が1学級、発達障害通級指導教室があり、コミュニケーションに課題のある児童が多く見られます。自閉症・情緒障害学級では、気持ちのコントロールや援助要求のSSTなど一人一人のめあてに沿った自立活動を、肢体不自由学級では、車椅子の生活を主とする児童に対し医療機関と連携し専門的な視点からの支援を行っています。また、2学級合同の生活単元学習を積極的に行い、互いを気遣ったり話しかけたりするとともに、それを交流学級でも生かせるようにしています。他校の児童生徒との交流も図り、中学校区で特別支援学級交流会を実施しています。今年度は一緒に学校ウォークラリー、仲間づくりゲームに取り組み、楽しく対話しながら過ごすことができました。個別の指導計画作成など、学級担任と通級担当者との連携も密に行い支援に生かしています。他者との会話が増える、友達の意見を聞きながら遊びのルールを決めるなど成果が表れてきています。



校外学習「いちご狩り」
こんなに採れたよ～！

学校間交流・居住地校交流における 児童生徒の社会性の育成を目指して

長岡市立総合支援学校

校長 稲田真砂美

当校では、児童生徒が居住地の児童生徒と一緒に活動をする居住地校交流、学校単位で交流をする学校間交流に取り組んでいます。居住地校交流では、児童生徒の希望を受け、受入校の協力をいただき、実態に合わせて学校行事や授業に参加したり、昼休みの時間に一緒に遊んだり、朝の会や清掃をしたりと、直接関わることにより、互いに分かり合い、楽しさを共有しています。また、手紙や作品の交換による交流も行っています。学校間交流では、青葉台小学校5年生と小学部上学年が互いの学校を訪問し、レクリエーションゲームやダンスを一緒に行いました。重複障害学級では、オンラインを用いて日越小学校の児童とボッチャ等で楽しく交流しました。

これらの活動は、豊かな人間関係の経験を深め、社会性を育成したり、お互いを尊重し合う大切さを学んだりする大事な機会です。今後も実態に合わせた活動を工夫していきます。



オンラインによる交流を
楽しむ児童



公益財団法人新潟教育会は、設立以来毎年「特別支援教育助成」の事業を行っています。
今年度は、令和6年11月29日(金)に贈呈式を行い、選考委員会で選出された6校に表彰状と助成金を贈呈しました。
今後、特別支援教育の充実・発展に向けて、特別支援教育の研究や実践の成果を上げている学校が助成の対象校とされるよう、校種を広げていきたいと考えています。

運動遊びを通した体力づくりとコミュニケーション、 「スマフェス」の取り組み

校長 須貝 学

当校には、知的障害学級が2学級、自閉症・情緒障害学級が2学級、肢体不自由学級が1学級、弱視学級が1学級あります。昨年度から自立活動という位置付けで、「スマフェス」という活動に取り組んでいます。

もともとは肢体不自由学級や弱視学級の児童の体力の向上を目的として、「スマフェス」が始まりました。活動を行う中で、他の支援学級の児童にも体力の向上をさせたいという担任の思いから、現在は支援学級全体で取り組む活動となっています。

活動の1つにゲーム的な要素を取り入れたサーキットトレーニングがあります。楽しみながら投げたり、跳んだりと様々な運動遊びを取り入れて活動を行っています。児童たちが進んで準備をし、高学年を中心に協力する姿が見られています。活動の最後には、それぞれが好きな運動遊びを行っています。準備や運動遊びを通して関わり合いが増えており、児童たちの自立活動として「スマフェス」は大きな役割を担っています。



ボール遊びを通して
関わりあう児童

通級指導教室を核とした 特別支援教育の充実

新潟市立東山の下小学校

校長 小林 裕之

当校では昨年度から言語通級指導教室、今年度から発達通級指導教室が設置されました。その通級指導教室担当者を中心に、1年の全4クラスで「めざせ！よみめいじん」という読み書きの支援を行っています。「多層指導モデルMIM」を用いて、視覚化と動作化（例えば長音は手を合わせた動き）で促音や長音、拗音等の確認をしたり、ことば集めに挑戦したりしています。「読み」は全ての学習の基礎。読むことが苦手にならないように進めています。

この指導と並行してアセスメント（実態把握）を行い、なかなか伸びが見られない子どもには担任が学級内で配慮をしたり、少人数や個別で各自の苦手さに応じた指導を行ったりしています。

通級指導教室担当者の「専門性」と、学級担任の「児童理解」とを連携させ、児童一人一人に応じた支援ができるよう校内体制を整えています。



「めざせ！よみめいじん」
動作化の様子

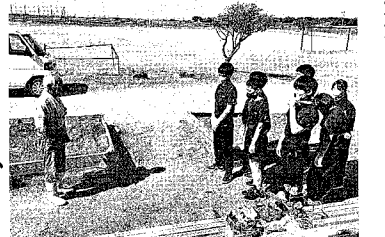
一人も一人にしない、 チームで取り組む特別支援教育

新潟市立巻西中学校

校長 貝沼 昌敏

当校には、知的特別支援学級が1学級、自閉症・情緒障がい学級が2学級あります。3年生が4人、2年生が5人、1年生が7人の合計16人と特別支援学級担任、支援員合わせて6人の職員で連携を大切にしながら特別支援教育に取り組んでいます。今年度は、7人の1年生を迎え、大所帯でのスタートでした。2年生、3年生は西中の先輩として、1年生が中学校生活をスムーズに送れるよう声掛け、雰囲気作りに努めてくれました。全員での活動の一つが、自立活動の畑作業です。学年を超えて作業班を作り、さつまいも・トマト・きゅうりの栽培に挑戦しました。きゅうりは、取り切れないほど実を付けました。地域の方にご協力いただき、指導していただきました。

小学校との連携や地域の方からの協力など温かな巻地域のなかで、生徒たちはのびのびと学習しています。来年度は、収穫した作物を活用し、生徒一人一人が活躍できる学習機会を計画したいと思っています。



畑の先生は、
地域のベテランの農家さん

2024年 夏季大学講座 開催



令和6年7月15日（祝：海の日）

長岡リリックホール コンサートホールにて

○ 講師・・・越乃リュウ様 Singer/Actress（元宝塚歌劇団月組組長）

○ 演題・・・自分らしく輝く未来へ ～ふるさと新潟から宝塚へ～

講師によるトークとミニコンサートで、451名の参加者は、とても豊かなひとときを過ごすことができました。

【参加者の声】

「言葉の量と質が自分をつくっていく」「自分の行動で自分の未来を引き寄せる」など、越乃リュウさんの経験や努力の成果の裏付けがあるからこそ伝わってくる言葉、引き込まれる語り、魅力的で圧倒的な歌唱を、直接感じることができました。子どもたちに伝えていきたいだけでなく、自分自身も実践していきたいと思うたくさんのヒントをいただき、とても貴重な時間を過ごすことができました。

（新潟市立越前小学校 大滝 徳久）



教育資料室からのお知らせ

資料選定委員会では、資料室の蔵書の整理とともにデータベース化を進めています。

蔵書数が多いため時間がかかっていますが、約2,000冊程のデータ入力を終えました。

資料室の利用者の皆様に活用いただけるよう引き続き努力していきます。

資料室のスペースに多少のゆとりが生まれましたので、以下の資料収集を考えています。

- 学校の周年事業にかかる記念誌
- 行政関係の刊行図書

寄贈くださる場合には、事務局まで連絡をお願いします。



お知らせ

◎ 9月13日、「充志会（昭和41年度）」の皆様から、新潟教育会へ156,000円のご寄付をいただきました。誠にありがとうございます。また、今年度、周年事業を迎えた「喜咲の会」「十二支の会」「杜和の会」「富士の会」の皆様からもたくさんのご寄付をいただいています。有効に活用させていただきます。

◎ 来年度、新潟教育会館の会議室、相談室の椅子をリニューアルする予定です。事業を2年サイクルで見直した成果を活かし、限られた予算を有効に活用して、快適に使っていただける施設へと改善に努めています。会議・研修等で、多くの皆様のご利用をお待ちしています。

◎ 来年度、「第26回教美展（新潟教育会美術展）」を開催します。

- ・ 期日：令和7年9月23日（火・祝）～9月28日（日）
- ・ 会場：新潟県民会館ギャラリーA



新潟教育会報

公益財団法人新潟教育会

（新潟教育会館内）

第105号

令和7年2月21日発行

〒951-8104 新潟市中央区西大畑町590番地3

TEL・FAX：025-222-2971 E-mail：jimu@kyouikukai.jp



新潟教育会
ホームページ

教師の誇り



新潟教育会 代表理事 吉田 隆

去る12月25日に中央教育審議会の総会で、次期学習指導要領の改定に向けた諮問が行われた。諮問の中に次のような一文がある。

「世界に冠たる我が国の初等中等教育は、質の高い教師の努力と熱意に支えられ、大きな成果を上げ続けています。」

マスコミを通して学校現場の負の側面ばかりが報道される中、上記の成果を具体的に語れる人がどれだけいるだろうか。

「学校はブラック職場」という受け止めも広がり、教員採用試験の受検者数は11年連続の減少。マンパワーの不足など課題は山積している。しかし、どのような職種にも成果と課題がある。成果の面にも光を当て、その職の魅力や誇りを感じ取れるところに人は集まる。以下、我が国の教育の成果を記したい。

【日本型教育の海外への広がり】

知・徳・体のバランスの取れた全人教育を行い、高い基礎学力や生活習慣を育む日本型教育は、世界各国で注目を浴びている。2016年には官民協働事業の「EDU-Portニッポン」が立ち上げられ、日本型教育の海外展開が始

まった。現在50か国以上に導入されている。例えば、エジプトは、学級会や清掃などの特別活動を中心とした日本型教育を採用し、これまでに51校開校している。また、日本の教員の授業研究のシステム（Lesson Study）も90年代後半に海外に紹介され、アメリカやオーストラリアなど多くの国で導入されている。

【OECDの各種調査結果】

学習到達度調査（PISA）では、長年トップクラスを維持すると同時に、1億人以上の人口を有する国で公平性の高い教育を実施できているのは、日本のみである。また、先日、第2回国際成人力調査（16～65才対象）の結果が公表されたが、読解力2位、数的思考力2位、問題解決能力1位であった。この高い数値は、日本の質の高い教育に関係があると分析されている。

成果の一端を記した。課題解決を急がなければならないが、これらの日本の教育の強みを失わせる結果を招いてはならない。資源の乏しい我が国の盛衰は教育の質が鍵を握っているからである。教師は誇りを胸に歩みたい。

教職員・県民の皆様を応援しています!! ～今年度の事業から～



第49回教育相談研修会



第16回教師力アップ講座

